

わんぱく学園ニュース

平成15年12月 No.100

師走…

あちこちの家の庭先に木守柿・木守柚子が目にとまる頃となりました。のどかなおちらとした田舎ならではの風情に心が癒されます。我が家の敷地内に3～4年前植えた柚子の木。今年は思いがけずたくさん白い小花をつけ、芳香を放つなど楽しみな心をプレゼントしてくれました。この黄色い果実ひとつひとつが一生懸命自分をつくりあげているかのようです。

実りの秋を終えた今、様々な活動を通して内面のさらなる充実を…と求めているわんぱく学園に来てくれる子どもたちです。そんな輝いた瞳に私たちスタッフは励まされたこの一年でした。そしてまた、来年はどんな楽しみを共に見つけようかな！と、一足早い柚湯に浸りながら思いにふけています。

★香川大会

先日11月29日(土)・30日(日)香川県にて第52回全日本手をつなぐ育成会全国大会が実施されました。

「ともにくらす社会へ IN さぬき」
「本人の出番だ!!インさぬき」を大会スローガンに、全国から3000名余り(親の会～8分科会・本人会～6分科会)が集い、分科会・シンポジウムで活発な意見交換がなされました。北海道から沖縄までの全国の仲間と話し合い友好を深め、お互いに情報・知識を仕入れ、明日からの育成会活動のエネルギーを蓄え合うことが出来た2日間でした。

障害の有無にかかわらず、誰もがお互いに地域の中で尊重し合い支え合い、生き生きと安心して暮らせる町づくりにと改めて意を強くしました。

-1-

～分科会に参加して～

テーマ 就労と保障「自立をめざして」

人が働くということは、一体どういうことなのでしょう～？
私は、この分科会に参加し、障害を持つ人の労働について考え直すとてもよい機会となりました。労働能力が低く労働出来ないということで、生産関係の外部に置かれる人々が、障害者(特に知的障害)として位置づけられているのが現実のように日頃から感じています。ここに障害者差別のひとつがあるように思わざるを得ません。障害等級分類や知的機能・身体的機能などそのような面からの違いはないとは申しませんが、人々の能力とはどのようなものかを、労働の面から考えてみました。

皆さんもご存知のように、(私は、新聞やテレビなどの報道で知ることが出来ました。)昨年WHO(国際保健機構)が出した、国際障害分類(ICF)では「障害は環境によって決定される」と記されていますね。この記事を読み私は、環境を整えれば・受け入れられる環境さえあれば、障害がある無しにかかわらず、働きたいと熱く希望する人は働くことが出来るのでは？そんな社会になれば…いや、したい！——と切に思ったのです。

全国的にみても受け入れてくれる理解ある企業が少ないというありのままの現実、この分科会に参加して知ることができました。手間ばかりかかり利益を余り生み出さない人を雇用するより、納付金を払った方が……という何ともやり切れないものを感じると共に、子を持つ親がスクラムを組み立ち上がらねば!!と逆にパワーを抱きました。勿論、私は、企業だけを責めようとも思いません。何故ならば今日の不況下での激しい企業競争で生き残るために…という厳しい現実も見聞きするからです。

実は、先日平田市手をつなぐ育成会の役員会の折りにも、この障害者雇用率制度(企業に対して障害者の雇用を義務づけている)があるのにもかかわらず、この制度が私たち地域においても生かされていないのでは？と。何とか声を上げなければ!!と悲しい現実を語り合ったばかりでした。

-2-

そこで、先ず人にばかり頼らず障害者・障害者(児)をもつ親や家族が前に踏み出さない限り何も変わらないという考えの下、学校を卒業する直前になってから慌てることがないように、将来にわたって自立していくシステムづくりが大切であることを自覚し合いたいと思いました。そして、ただ支援を受けるだけではなく、自分で出来ることからやってみよう~!と、自ら積極的に地域に飛び出して活動することの大切さをも痛感しました。

自分の責任で動くという、今、新たなる暮らしの挑戦に向かっているこれからの私です。

最後になりましたが、無知な上不勉強な私はこの会に参加してはじめて、障害者雇用で熱く活動なさっていらっしゃる企業経営者・小倉昌男さんの名を知ることが出来ました。このように理解していただける方がひとりでも多くいらっしゃることに、またまたエネルギーをいただきました。

♥嬉しかったですねえ~この記事!!

少々厳しい日程であった全国大会参加でした。がその疲れが吹き飛ばす記事が、何と翌日目にとまりました。大変勝手ながら紹介させていただきますことお許し下さい。(この紙面の関係上P4に…)

◆12月の「わんぱく学園」メニューは、下記の通りです。

12月 7日	クリスマス会(平田小通級指導教室共催) 場所~平田市子育て支援センター 福徳東・光人塾となり 集合時間~9時30分 会費:1100円(プレゼント代・昼食代・ケーキ代など) 申込~原教諭(教63-5222・自宅72-0452~6日の午前中まで)
14日	粘土コネコネして あ~そぼ! おちらと畑の野菜など合併鍋でたらふくパーティーへおいでませ! 担当~安食ひろ榎 場所~アトリエおちらと~東郷町4
21日	じっくり絵を描いて あ・そ・ぼう~! ミチル喫茶もたのしみ♪(榎野良樹 職長キヤリー~"ミチル")

集合時間 9時15分・集合場所 光人塾前駐車場(学園の隣 台せ土江62-2667)

[文責 土江]

障害者支援や環境保護など、企業の社会貢献活動がデフレの逆風の中で着実に広がっている。大型の寄付などが見直される一方で、経営ノウ

ハウの提供や本業を生かした活動など、企業本来の持ち味を出そうとする動きが盛んになっている。

障害者支援や環境保護…

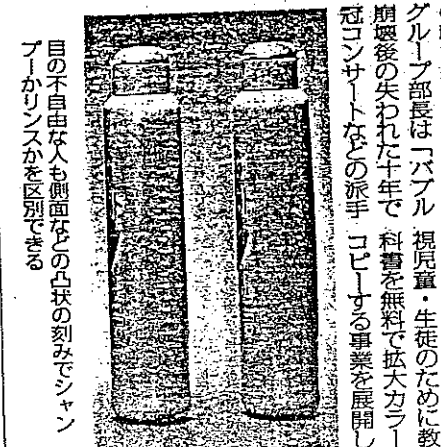
広がる企業の社会貢献



「スワンベーカリー」の店内でパンづくりに携わる障害者ら=11月20日午前、東京都港区赤坂

デフレ下で持ち味生かす

東京・赤坂のオフィスにきた。街の一角にある「スワンベーカリー」。明るい店内には焼きたてのパンが並び、朝から近頃の「スワン」は、ヤマトらでにぎわっている。二連輪元会長の小倉昌男や十三人の従業員のうち、四人は知的障害者を含む。障害者、パンを焼いたり、店舗を全国に展開。約百



目の不自由な人も側面などの凸状の刻みでジャンプリーンスカを区別できる

業の社会貢献に関する支那事業は減り、得意分野の出は、九一年度の一社平均五億二千五百万円から二〇〇一年度には三億四千二百万円まで減った。だが予算を増やす企業も多く、二種分化が進んでいるという。

▽得意分野に絞る 家庭用品量大手、花王

「唐には障害者を介助する人はあえて置かない。仕事を進めて社会的に経済的に自立してもらうのが目標です」(寺本正次「スワン」事務)

日本経団連の会員企業

業の社会貢献に関する支那事業は減り、得意分野に出は、九一年度の一社平均五億二千五百万円から二〇〇一年度には三億四千二百万円まで減った。だが予算を増やす企業も多く、二種分化が進んでいるという。

▽得意分野に絞る 家庭用品量大手、花王

複写機大手の富士ゼロックスでも本業を生かして、全国の販売拠点で弱視児童・生徒のために教科書を無料で拡大カプリーコンサートなどの派生コピーする事業を展開している。

「二〇一二年、大企業には欧米の調査会社が社会的貢献の実態に関する質問状が舞い込み、対応に迫られている」(日本経団連の伊藤一秀)

海外の投資家が環境や雇用での取り組みを投資尺度にする動きが活発化しているため、社会貢献の度合いは市場の選別の目ざされていく。

スワンを始めた小倉氏は「障害者が作ったものがバザーで売れました」というが、バザーは善意の人が買っている。真の自立のためには市場で売れるようにしないと。そのため企業経営のノウハウを生かし、福祉と融合させる必要がある」と話す。市場経済に近づき組み込んでいくのが社会貢献活動の鍵を握っている。

山陰中央新報社

03.12.14 掲載